

キャリア・アドバイザー通信

今回のキャリア・アドバイザー通信では、本学で平成17年度より実践している共通教育における初年次からの体系的なキャリア教育プログラムと、後期から開講されるキャリアプラン入門について紹介いたします。

1. キャリア教育とはなにか

大学全入時代といわれる最近の大学教育にとって、学生の学びと成長をどのように考え、大学から社会へどのようにつなげるかは大きな課題となっています。

ネットワーク社会、グローバル社会といった新たな枠組みの社会において、大学は単に知識を習得する場に留まらず、社会にどのように貢献して力強く生きる人材を育成



するかが問われています。そこで、従来の正課授業に限らず、正課外授業、キャリア教育、大学生活など全ての視点で学生を育てていくことが重要になってきます。実際の採用試験では、従来の大学名・大学の成績といった表面的な点に限らず、大学4年間で何を学び経験して、どの程度具体的に成長したのか、答が必ずしもあるといえないこれからの社会で、どのように切り開いていくことができる人材となりえるのかを判断しているといえます。

2. 本学の体系的キャリア教育プログラム

本学の体系的なキャリア教育プログラムは、全部で19科目配置されています。特に、キャリア選択に重点をおいた本プログラムの最終目標は、卒業時点だけに限らず、卒業後の長い人生において、その時々によりよいキャリア選択を実現するために必要とされる知識や態度やスキルを育成することがねらいです。したがって、3年後期から実施する就職試験対策としてのマナー講習や面接対策などは異なります。

本プログラムの学年別の到達目標は、1年次「自己理解の基礎、人生目標と計画の構想」、2年次「自己理解の追求、目標と計画の明確化、基本スキルの鍛錬」、3年次



「自己理解の深化、目標と計画の具体化、実践能力の育成」、4年次「キャリアの決定」となります。学年はあくまでも目安で、対象学生の習熟度に沿って必要となる段階のプログラムを受講できるように体系的性と連続性を意識した構成となっています。

本プログラム全体としては、①自らのキャリアを考え、模索する機会を提供し、それを一つの契機として②大学生活(大学教育)の充実と③将来求められる知識・能力の向上を目指しています。キャリア教育はキャリア教育のみで完結するのではなく、大学教育全体と有機的に結びつくことにより、期待される本来の成果が得られると考えています。

3. 科目「キャリアプラン入門」

(一)本科目の概要
本科目は文系3学部(文・経・法)の1年生を対象としています。クラス

は、学部学科混合で計10クラス開講(例年1000名を超える学生が履修しています。担当教員は、学部所属する専任教員6名と筆者を含む7名で行っています。その他、SA(チューデントアシスタント)、4年次の先輩、卒業生、企業の人事担当者などを講師として招聘しています。開講は、1年次後期、月金の1限目に同時に2クラスごと開講。科目の内容やテキストは担当者との意見交換を踏まえて筆者が中心となり作成しています。

(2)教育目標

教育目標は、大学4年間を変化成長の場とするために、大学生活(教育学習を含む)を自主的・意欲的に取り組むために必要な基礎的な知識と態度とスキルを獲得させ、有意義な大学生活に必要なとなる基盤を整備することです。

(3)本科目の内容

授業内容は表1をご参照ください。授業の具体的な課題は、将来を視野に入れた大学生生活4年間の

表1.「キャリアプラン入門」の内容(平成23年度版)

回数	テーマ
第1回	本講義の目的と概要
第2回	問われる学生時代の成果とは
第3回	高校と大学・学生と社会人
第4回	先輩インタビュー-I(民間企業編)
第5回	先輩インタビュー-II(公務員・進学編)
第6回	これまでの学生生活をふりかえる
第7回	未来予想図を描く
第8回	大学生の就職事情
第9回	就職試験問題の解説
第10回	社会の求める人材
第11回	就職模擬試験の実施
第12回	自分のキャリアプランを考える
第13回	今後の学生生活プランI
第14回	今後の学生生活プランII
第15回	総括



目標設定と行動計画(アクションプランシート)を作成することにあります。また、1年前期、教養演習(初年次セミナー)を通じて習得したアカデミックスキルとチューデントスキルを活用する場としても配慮しています。

(特命講師)

キャリア・アドバイザー 酒井佳世